

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿とは



○10の姿を念頭において、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり、必要な援助を行ったりします。

○10の姿は、「×到達目標ではありません」「×個別に取り出して指導するものではありません」

○5歳児だけでなく、0～4歳児の時期から、乳幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意が必要です。

幼児教育と小学校教育をつなぐ手掛かりとなります

資料①												
遊びや場面		知識及び技能の基礎		思考力、判断力、表現力等の基礎				学びに向かう力、人間性等				
砂や水、土や泥に触れて（感触を楽しむ）		・砂や土、泥などの感触を楽しむ。 ・用具を使って水を流し遊ぶ中で、自然の法則に気付いたり、砂水がもつ特性に気付いたりする。		・遊びの中で気付いた砂や土の特性を使って、試行錯誤しながらつくり、表現する喜びを感じる。 ・想像力を働かせて、様々なものに見立てる。				・全身で感触を楽しみながら遊びの中で、解放感を感じ、情緒が安定する。				
接続期までの遊びや学びのプロセス												
0歳	・戸外に連れて行ってもらうことを喜ぶ。 ・沐浴を通して、全身でお湯や水に触れる気持ちよさを感じる。	【接続期】5歳児後半	健康	自立心	協同性	道徳性	社会生活	言葉	思考力	自然	数量・図形	感性と表現
1歳	・水に触れる心地よさを感じる。		◎	○	○			○	◎	◎	○	◎
遊びや学びのプロセス												
2歳	・自分から関わろうとする。 ・水や土、泥の感触を味わう。		・スコップや手をつかい、山をつくったり、トンネルを掘ったりして楽しむ。 ・水の量や使う用具も自分たちで選び、水と素材（砂、土など）との組み合わせや水の流れを楽しむようになる。									
環境・援助のポイント												
3歳	・いろいろな素材に触れる。（指絵の具、小麦粉粘土など） ・泥で見立て遊びをするようになる。		・遊ぶ内容によって用具を選ぶように、ペットボトル、バケツ、じょうろ、雨どいや塩ビ管などを十分に用意しておく。 ・砂は可塑性があり、うまくいかなくても何度も繰り返し挑戦することができるため、一緒に遊ぶ仲間とできた喜びを感じたり失敗した時に一緒に考えたりしていく。									
4歳	・砂や水の冷たさを感じる。 ・感触の違いを楽しむようになる。											
5歳前半	・全身で関わる楽しさを感じる。（泥遊びなど）											
小学校のスタートカリキュラム		生活科「みずであそぼう」 図画工作科「すなやつちとなかよし」										

幼児教育と小学校教育が
つながるって
ということ

遊びは学び 学びは遊び
“やってみてが学びの芽”

～「やってみて」から始まる学びの芽(知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力)の育成～

資料
第2章
各教科等における
学びのつながり

文部科学省が作成した
架け橋プログラムに関する
資料、動画コンテンツ



園での経験や学びを生かした
生活科の授業を考えたいな...

生活科

担当教員からのメッセージ

佐藤 寛子 先生

国語科 担当教員からのメッセージ 吉田 真由美 先生	算数科 担当教員からのメッセージ 佐藤 寛子 先生	音楽科 担当教員からのメッセージ 水原 真由美 先生	図画工作科 担当教員からのメッセージ 村上 貴雄 先生	体育科 担当教員からのメッセージ 田中 啓太 先生	特別の教科 道徳 担当教員からのメッセージ 佐藤 寛子 先生	特別活動 担当教員からのメッセージ 伊藤 直美 先生
---	--	---	--	--	---	---

幼児期の遊びを通した学びと小学校の教科学習や活動での学びのつながりをより詳しく知ること、円滑な接続が期待されます。各教科における授業展開例が文部科学省 HP に載っています。

出典：文部科学省「令和6年度 幼児教育担当指導主事・担当者及び幼児教育と小学校教育との接続に関する担当指導主事会議」にて